

平成24年度採択プログラム 中間評価調書

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	長崎大学	整理番号	O05
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) かたみね しげる 氏名・職名 片峰 茂 (長崎大学学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) やました しゅんいち 氏名・職名 山下 俊一 (長崎大学理事(国際・附置研究所担当))		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) もりた こういち 氏名・職名 森田 公一 (長崎大学熱帯医学研究所 所長)		
4. 類型	○ <オンリーワン型>		
5.	プログラム名称	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム	
	英語名称	Program for Nurturing Global Leaders in Tropical and Emerging Communicable Diseases	
	副題	世界の安全、安心に寄与する感染症制御専門家、リーダーの養成を目指して	
6. 授与する博士 学位分野・名称	博士(医学):熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム修了		
7. 主要分科	(①) (②) (③) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	社会医学、内科系臨床医学、基礎医学		
8. 主要細目	(① 公衆衛生学・健康科学) (② 感染症内科学) (③ ウイルス学) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻、熱帯医学研究所		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

(機関名:長崎大学 類型:オンリーワン型 プログラム名称:熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム)

14. プログラム担当者の構成 計 28 名			
外国人の人数	2 人	[7.0%]	女性の人数
			1 人 [3.5%]
プログラム実施大学に属する者の割合 [100.0 %]			
プログラム実施大学に属する者	28 人	プログラム実施大学以外に属する者	0 人
そのうち、他大学等を経験したことのある者	28 人	そのうち、大学等以外に属する者	0 人

15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者) 山下 俊一	ヤマシタ シュンイチ		理事 (国際・附置研究所担当)	内分泌・代謝学、放射線災害医療学・医学博士	プログラム責任者 (プログラム運営の統括)
(プログラムコーディネーター) 森田 公一	モリタ コウイチ		熱帯医学研究所・所長・教授	ウイルス学・医学博士	コーディネーター (プログラム実施の統括)、感染症危機管理学特論、コミュニケーション教育推進、学位論文指導
西田 教行	ニシダ ノリキ		大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	病原微生物学・博士 (医学)	サブコーディネーター (基礎医学領域担当)
泉川 公一	イズミカワ コウイチ		大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	感染症学、感染制御学、真菌学・博士 (医学)	サブコーディネーター (専門教育領域担当)、感染制御学特論、学位論文指導
山本 太郎	ヤマモト タロウ		熱帯医学研究所・教授	国際保健学、フィールド医学・博士 (医学・国際保健学)	サブコーディネーター (海外実践教育担当)、国際保健学、コミュニケーションスキル
稲田 俊明	イナダ トシアキ		言語教育研究センター・センター長・教授	言語学、応用言語学・文学修士	サブコーディネーター (コミュニケーション教育の統括)
須齋 正幸	スサイ マサユキ		経済学部総合経済学科・教授	国際金融論・商学修士	リスク管理学特論、国際経済学特論、国際法学特論
門司 和彦	カドシワ カズヒコ		国際健康開発研究科・研究科長・教授	人類生態学、熱帯公衆衛生学・保健学博士	文化人類学特論
Laothavorn Juntra	ロハボン チョントラ		熱帯医学研究所・教授	臨床開発学・理学博士	倫理学特論、コミュニケーションスキル、学位論文指導
金子 修	カネコ オサム		熱帯医学研究所・教授	寄生虫学、原虫病学・博士 (医学)	寄生虫学特論、学位論文指導
濱野 真二郎	ハマノ シンジロウ		熱帯医学研究所・教授	寄生虫学、免疫学・博士 (医学)	免疫・遺伝学特論、学位論文指導
平山 謙二	ヒラヤマ ケンジ		熱帯医学研究所・教授	免疫遺伝学・医学博士	倫理学特論
皆川 昇	ミナカワ ノボル		熱帯医学研究所・教授	環境医学・PhD	病害昆虫学特論、コミュニケーションスキル、学位論文指導
有吉 紅也	アリヨシ コウヤ		熱帯医学研究所・教授	感染症内科学・博士 (医学)	熱帯感染症制御学特論、コミュニケーションスキル
橋爪 真弘	ハシヅメ マサヒロ		熱帯医学研究所・教授	疫学、公衆衛生学・博士 (医学)	フィールド疫学特論、コミュニケーションスキル、学位論文指導
一瀬 休生	イチセ ユセイ		熱帯医学研究所・教授	細菌学・医学博士	フィールド研究支援 (アフリカ拠点)、コミュニケーションスキル
山城 哲	ヤマシロ テツ		熱帯医学研究所・教授	熱帯微生物学・博士 (医学)	フィールド研究支援 (ベトナム拠点)、コミュニケーションスキル、学位論文指導
安田 二郎	ヤスタ ジロウ		熱帯医学研究所・教授	ウイルス学・博士 (理学)	ウイルス学特論
Culleton Richard Leighton	カルトン リチャード レイトン		熱帯医学研究所・准教授	寄生虫学・PhD	コミュニケーションスキル
中込 治	ナカゴミ オサム		大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	衛生学・分子疫学・医学博士	疫学統計特論、コミュニケーションスキル
森内 浩幸	モリウチ ヒロユキ		大学院医歯薬学総合研究科・医療科学専攻・教授	小児科学、ウイルス学、感染症学・医学博士	熱帯感染症制御学特論
由井 克之	ユイ カツユキ		大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	免疫学・医学博士	学位論文指導
中山 浩次	ナカヤマ コウジ		大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	病原微生物学・歯学博士	ウイルス学
小林 信之	コバヤシ ノブユキ		大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	ウイルス学・薬学博士	学位論文指導
神谷 保彦	カミヤ ヤスヒコ		国際連携研究戦略本部・教授	国際保健学・博士 (医学)	国際保健学特論、コミュニケーションスキル
長谷部 太	ハセベ フトシ		国際連携研究戦略本部・教授	ウイルス学・博士 (医学)	フィールド研究支援 (ベトナム)、コミュニケーションスキル
柳原 克紀	ヤナギハラ カツノリ		大学院医歯薬学総合研究科・医療科学専攻・教授	臨床微生物学、感染症学・博士 (医学)	細菌学特論
濱田 剛	ハマダ ツヨシ		先端計算研究センター・准教授	情報工学 (高性能計算)・博士 (学術)	学位論文指導 (情報工学、バイオインフォマティクス)

(機関名:長崎大学 類型:オンリーワン型 プログラム名称:熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム)

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 *(今後の募集予定: 有・無)
プログラム募集定員数(実数)		-	15人	15人	12人
① 応募学生数		-	25人	20人	12人
	うち留学生数	-	15人	16人	10人
	うち自大学出身者数	-	11人(7人)	7人(7人)	3人(2人)
	うち他大学出身者数	-	14人(8人)	13人(9人)	9人(8人)
	うち社会人学生数	-	3人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	うち女性数	-	11人(7人)	9人(6人)	3人(2人)
② 合格者数		-	15人	15人	9人
	うち留学生数	-	10人	12人	8人
	うち自大学出身者数	-	4人(2人)	4人(4人)	2人(1人)
	うち他大学出身者数	-	11人(8人)	11人(8人)	7人(7人)
	うち社会人学生数	-	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	うち女性数	-	6人(4人)	7人(5人)	2人(2人)
③ ②のうち受講学生数		-	15人	14人	9人
	うち留学生数	-	10人	11人	8人
	うち自大学出身者数	-	4人(2人)	3人(3人)	2人(1人)
	うち他大学出身者数	-	11人(8人)	11人(8人)	7人(7人)
	うち社会人学生数	-	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	うち女性数	-	6人(4人)	7人(5人)	2人(2人)
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数)(小数点第二位を四捨五入)		-	1.67倍	1.33倍	1.33倍
充足率(合格者数/募集定員)		-	100.00%	100.00%	75.00%

※うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()には留学生数を内数で記入してください。

※平成27年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成27年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度						平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度	平成29年度
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計		
平成24年度選抜						0						0						0						0		
うち留学生数						0						0						0						0		
うち自大学出身者数						0						0						0						0		
うち他大学出身者数						0						0						0						0		
うち社会人学生数						0						0						0						0		
うち女性数						0						0						0						0		
平成25年度選抜						0						0						0						0		
うち留学生数						0						0						0						0		
うち自大学出身者数						0						0						0						0		
うち他大学出身者数						0						0						0						0		
うち社会人学生数						0						0						0						0		
うち女性数						0						0						0						0		
平成26年度選抜						0						0						0						0		
うち留学生数						0						0						0						0		
うち自大学出身者数						0						0						0						0		
うち他大学出身者数						0						0						0						0		
うち社会人学生数						0						0						0						0		
うち女性数						0						0						0						0		
平成27年度選抜						0						0						0						0		
うち留学生数						0						0						0						0		
うち自大学出身者数						0						0						0						0		
うち他大学出身者数						0						0						0						0		
うち社会人学生数						0						0						0						0		
うち女性数						0						0						0						0		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
修了者数																										
就職者数																										
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																										

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。
 ※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。
 ※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。
 ※辞退者(Q.Eによるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度					平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度	平成29年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成24年度選抜	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
うち留学生数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
うち自大学出身者数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
うち他大学出身者数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
うち社会人学生数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
うち女性数	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0		
平成25年度選抜						15	-	-	-	15	15	-	-	-	15	-	6	9	-	15		
うち留学生数						10	-	-	-	10	10	-	-	-	10	-	3	7	-	10		
うち自大学出身者数						4	-	-	-	4	4	-	-	-	4	-	3	1	-	4		
うち他大学出身者数						11	-	-	-	11	11	-	-	-	11	-	3	8	-	11		
うち社会人学生数						0	-	-	-	0	0	-	-	-	0	-	0	0	-	0		
うち女性数						6	-	-	-	6	6	-	-	-	6	-	3	3	-	6		
平成26年度選抜											14	-	-	-	14	2	11	-	-	13		
うち留学生数											11	-	-	-	11	2	8	-	-	10		
うち自大学出身者数											3	-	-	-	3	1	2	-	-	3		
うち他大学出身者数											11	-	-	-	11	1	9	-	-	10		
うち社会人学生数											0	-	-	-	0	0	0	-	-	0		
うち女性数											7	-	-	-	7	1	6	-	-	7		
平成27年度選抜																9	-	-	-	9		
うち留学生数																8	-	-	-	8		
うち自大学出身者数																2	-	-	-	2		
うち他大学出身者数																7	-	-	-	7		
うち社会人学生数																0	-	-	-	0		
うち女性数																2	-	-	-	2		
計	0	0	0	0	0	15	0	0	0	15	14	15	0	0	29	11	17	9	0	37		
修了者数	-					-					-					9	17					
就職者数	-					-					-											
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	-					0					0											

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【プログラムの必要性と概要】

熱帯地域を中心とした開発途上国には世界人口の 8 割を超える人々が生活しており、今なおマラリア、デング熱、トリパノゾーマ症などの熱帯特有の感染症により多数の患者が発生している。一方、あらゆる分野で進展するグローバル化の潮流は地球規模でのボーダーレスなヒト、モノの移動とアジア・アフリカ地域における自然開発、人口増加、都市化をもたらし、熱帯病・新興感染症のアウトブレイクと伝播を容易にしている。その結果、健康被害や経済損失が広範囲に発生し、熱帯病・新興感染症は開発途上国のみならず先進諸国においても安全・安心な生活を脅かす重大な要因となっている。西ナイル熱のアメリカ大陸への侵入(1999)、重症呼吸器症候群(SARS)の出現と流行(2002)、鳥インフルエンザ H5N1 のヒト感染の拡大(2003)、新型インフルエンザ H1N1(2009)のパンデミック等の事例は記憶に新しいところである。このような熱帯病・新興感染症対策には、利用可能なリソース(機材、人材、資金等)を動員し正確な科学的根拠に基づき効果的な対応を主導できる優れたリーダーシップを備えた国際的人材の充実が急務である。

本学位プログラムにおいては、取り組むべき課題として「熱帯病・新興感染症の制御」を掲げた。この課題に取り組むため、本学大学院医歯薬学総合研究科に「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」を設置して、グローバルな視点で国際リーダーとして活躍できる人材を育成するための大学院教育を行う。具体的には学位論文作成を通して実施する分野別の専門教育に加え、本学が有するケニアとベトナムの研究施設とフィールド、WHO 等の国際機関、海外の協力研究施設、NGO 等において実地研修を含む分野横断的なカリキュラムによる実践的教育を行う。これにより熱帯病・新興感染症を分子レベルから疾病制御のオペレーショナルなレベルまで、開発途上国から先進国まで包括的にその状況を俯瞰し、国際的に通用するコミュニケーション能力を身に付け、感染症危機対応にも知識を持つ人材を育成する。こうした人材には国際レベルの熱帯病・新興感染症制御および感染症危機に対応できる専門家としての活躍が期待され、日本および世界の「平和で安全・安心な生活を保障する人間社会の構築」への貢献につながる。

【特色】

4 年間の大学院博士課程の教育により、グローバルな環境で活動できる専門性と国際性を身に付けた熱帯病・新興感染症制御に資する専門家を育成するため下記の取組を実施する。

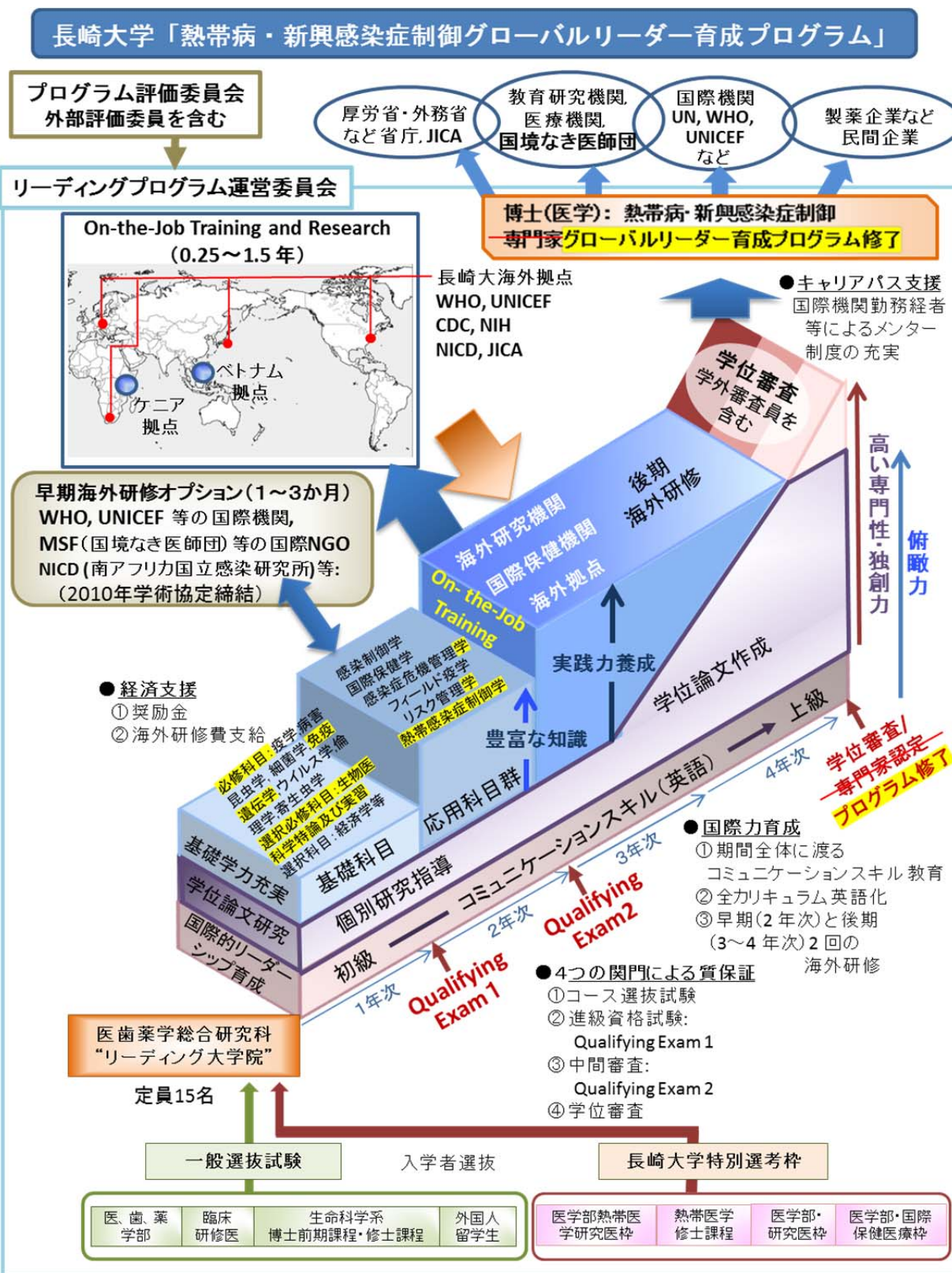
- ・充実した教授陣の英語による横断的カリキュラム
- ・4年間を通じたコミュニケーションスキルの一貫教育
- ・海外拠点や国際機関等での感染症対策 On-the-job トレーニング、インターンシップ
- ・協力機関(南アフリカ NICD、2010 年学術協定締結済等)での BSL4 病原体取扱いトレーニング
- ・倫理教育の導入: 開発途上国における感染症対策専門家に要求される高い倫理性の涵養
- ・学生の選抜: 本学の医学部および修士課程から一貫して熱帯病を学ぶ学生への特別入学枠の設置
- ・学生への経済的支援: 奨励金制度、海外研修経費の支給制度による経済負担の軽減措置
- ・学生への精神的支援: メンター制度の充実(国際機関勤務経験者による進路相談等)

【優位性】

長崎大学は熱帯医学研究所および医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻を中心として熱帯・新興感染症の教育・研究に関わる教授陣を増強し、関連する海外学術機関や国際機関との連携を強化してきた。特に 2003 年からの 21 世紀 COE プログラム「熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点」、2008 年からのグローバル COE プログラム「熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略」によって研究教育体制は飛躍的に向上し、研究成果も増加している。2005 年、熱帯医学研究所は WHO から「熱帯・新興ウイルス感染症に関する」WHO 研究協力センターに指定され、世界的な認知度も高まっている。また、同年からケニア共和国ナイロビ市とベトナム社会主義共和国ハノイ市に大学教員が常駐する研究施設を開設し、アフリカ・アジアでの教育、研究インフラを整備している。加えて、2008 年より独立研究科の国際健康開発研究科(修士課程、定員 10 名)を立ち上げ、8 か月の長期海外研修を実施しており、そのノウハウを有する。さらに、2010 年には文部科学省最先端研究基盤事業により感染症創薬機器と病原体可視化研究のインフラを整備充実しており、熱帯病・新興感染症について国際的レベルでリーディング大学院プログラムを実施できる優位性を有している。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	長崎大学	整理番号	O05
プログラム名称	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	山下 俊一	プログラム コーディネーター	森田 公一

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムについては、カリキュラムがよく整備され、バランスのよいプログラムとなっている。また、学生が切磋琢磨し合う取組も実施され、学生の在籍する研究科との連携も概ね良好と判断される。以上より、本プログラムについては十分に評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、外部機関の参画も積極的になされており、海外研修では高い評価を得た事例が複数あるものの、目指すグローバルリーダー像やそれに向けてのキャリアパスを学生が十分に描けていない例が散見される。各種のシステムは構築されているが、その実効性を高めるフォローアップ体制などに、一層の努力・工夫が必要と思われる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備について、指導体制の構築や改革意識の共有、国際ネットワークの形成は概ね達成されている。また、グローバルな環境も十分に整備されている。以上より、本項目に関しては評価できる。

優秀な学生の獲得については様々な工夫を行っており、その結果、選抜における合格者は毎年度定員を充足している。また、学生には十分な経済的支援も行っており、本項目に関しては十分に評価できる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、学位審査は外部審査委員を含む公開審査とする仕組みを構築しており、QEでは専門分野の理解度に加え、課題解決能力などの多様な能力を英語で審査していることから、質は十分に保証されていると考えられる。

事業の定着・発展については、学長を中心とした責任あるマネジメント体制が機能している。外部評価体制、自己評価体制も整備され、複数のレベルでプログラムへのフィードバックが行われる仕組みとなっている。支援期間終了後に向けて、長崎大学グローバルヘルス基金を平成27年度に設立し、同年度10月には、熱帯医学・グローバルヘルス研究科（修士課程）を開講した。今後はこの研究科と有機的に連携し、修士と博士の両課程で一貫した大学院教育プログラムを構築する予定である。以上より、本項目に関しては十分評価できる。